



**JAPAN  
LEATHER  
AWARD  
2020**



# GRAND PRIX

ジャパンレザーアワード 2020

グランプリ



# WEAR & GOODS

ウェア&グッズ部門



ベストプロダクト賞

小林 仁太さん

KOBAYASHI Jinta

— CONCUSSION —

[ TECHNO LEATHER CRAFT : HEXAGON PATTERN COIN CASE ]

## 革と3Dプリンタの幸福なる関係

職業が工業デザイナーの小林さんは、  
常々3Dプリンタの革新的な活用方法を考えていた。  
テクノロジーと革との出会いは、運命を変えた。

一見して惚れ惚れする精緻を極めた佇まい。手に取ると想像以上に軽く、陰影の浮かぶ凹凸が指に心地よい。「ジャパンレザーアワード2020」のグランプリに輝いたプロダクトは、3D CADと3Dプリンタを活用した新時代のコインケース。受賞者である小林仁太さんの考案したオリジナルのレザー加工技法「TECHNO LEATHER CRAFT PROJECT」によって制作された。「仕事で使っていた3Dプリンタの活用法を研究する過程で、革との組み合わせを思いつきました。いろいろと

試していくうちに相性のよさがわかり、同時に革という素材に魅了されていきましたね」

そもそも小林さんの目的は、「一時期話題になったものの世の中を変えるまでに至らなかった」3Dプリンタの新たな利用方法を探し出すことだった。多種多様なマテリアルにトライする過程で出会った革は、あくまで3D設計にマッチする「手段」のひとつであったが、そこから広がる奥深き世界に徐々に惹かれていった。「プロフェッショナルの素晴らしい革職人さんがいらっ



小林さんの本業はインダストリアルデザイナー。カーナビやオーディオなどの車載器をデザインしている

しゃる一方、ホームセンターでキットを買えば趣味として誰でもすぐに始められる。幅が広く、おもしろい世界だとも思いました。自分も当時は素人だったので、材料としてとつきやすかったというのがあります」

濡らすと伸びる革の特性は3Dプリンタと親和性が高く、なかでも形を残すのにヌメ革の厚みと硬さが適していることが判明した。当初は趣味の延長だったが、プロダクトとして世に送り出せるまで完成度を高め、2年前に「CONCUSSION (コンカッション)」というブランドをスタート。Web販売をするほか、今年に入ってからファッションブランドのキャンベルからもオファーがかり、コラボレーションをするまでに至った。

「CONCUSSIONは脳しんとうという意味です。人の意識をグラグラさせるくらいインパクトのあるものをつくりたかったので、コラボの話は自信につながりました」

じつは小林さんは、2019年の「レザーアワード フリー部門」にも作品を応募したが、入賞には至らなかった。「同じ六角形の型を使っているけど、去年の作品は柄としての意味合いが強かったです。今年はより立体的な形状

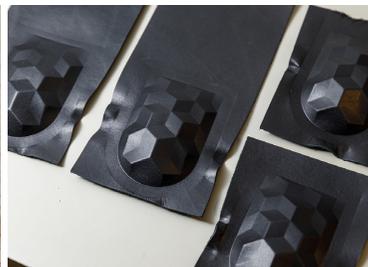
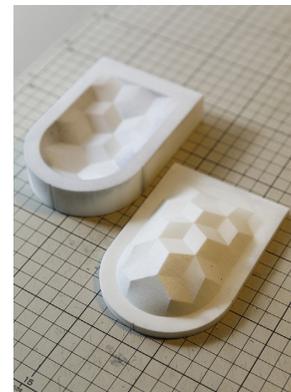
を追求し、その結果、成形したときの強度も増しました。次のレベルに進めたという手ごたえもありますし、業界に認められたグランプリの受賞は本当にうれしいです」

今回は機能性にもこだわった。キャッシュレス化が進む現代人のライフスタイルに合わせてカードポケットを付加し、外出する際にはコインケースひとつで事足りる仕様に。さらに、コインの取り出しやすさにも配慮した。

小林さんのクリエイティビティは、人々の心を動かす何かがある。革の仕入れ先である天野宝国も、作品の縫製を依頼している関本製作所も、基本的には個人のオーダーを受け付けていない。だが、小林さんの活動に興味を持ち、全面的にバックアップしてくれた。

「僕の活動を面白がってくれて、今回も快く協力していただきました。関本製作所の関本さん、天野宝国の南田さんには心からお礼を言いたいです」

今後はこの技法を突き詰め、「プレスしただけでプロダクトが完成するというようなレベルにまで進化させたい」と小林さん。次世代を担うクリエイターは、革製品をネクストステージへと押し上げる可能性を秘めている。



左側が3Dプリンタを駆使して造形した型。水分を含ませたヌメ革に力強く均等に圧力をかけ、立体的な造形パターンを転写する

デザインだけではなく、機能性もとことん追求。コインを使う際は、蓋の内側に滑らせることで簡単に取り出すことができる



3D CADによる設計とプレス機を使った型押しを自室で行う小林さん。作業中は、愛猫のターボ(左)とロケットが気分を和ませしてくれる



FOOTWEAR  
フットウェア部門

ベストプロダクト賞

宮内 崇さん

株式会社  
スピングルカンパニー

[ RE:SETO ]



テーマは「瀬戸内としてのサステナブル」。害獣として処分された瀬戸内のイノシシの革をアッパーに使い、新たにプロダクトとしてよみがえらせた。元々のキズをあえて目立たせ、生きていた証を表現。ソールは国産ベンズをカップソール状に成型し、足入れの際の包み込むようなフィット感を追求。天然ゴムソールは修理を加味し、セパレートにしている。

フューチャーデザイン賞

細川 悠真さん

個人

[ 100年履ける靴 ]



靴を履きつぶす原因のひとつであるソールの消耗に着目し、ユーザーの手で簡易的にソール交換のできる靴を考案。ソール以外の素材として化学繊維ではない革を使用することで、加水分解を防ぎ、一日でも長く履けるように工夫を凝らした。斬新かつ独創的なアイデアと、作品名にある「100年履ける靴」を目指したチャレンジマインドが高く評価された。

BAG  
バッグ部門

ベストプロダクト賞

松村 美咲さん

有限会社 清川商店

[ AUDREY ]



ジャパンメイドにこだわった「手仕事を感じるバッグ」。一枚一枚手塗りで染めた革の美しい風合いを活かすため、ボディの継ぎ目をなくし立体感のあるデザインに仕上げた。特徴的な口金は数少ない国内の職人によるオリジナルで、仕上げの磨きはアクセサリー職人によるもの。クラフト感とは一線を画す、ミニマムで本物志向のモダンデザインが光る。

フューチャーデザイン賞

鈴木 磨さん

株式会社 由利

[ 外交的内装靴 ]



内装と外装が互いの機能に憧れを抱く——。プロダクトにストーリーを忍ばせたコンセプト的なバッグ。内装の可視化、靴の変形を防ぐための外装の持手の移動、差込錠による持手のサポートが大きなポイントだ。上部のヌバック革と下部のスモース革との質感およびフォルムの対比がじつに美しく、今までにない新しいデザインを生み出している。

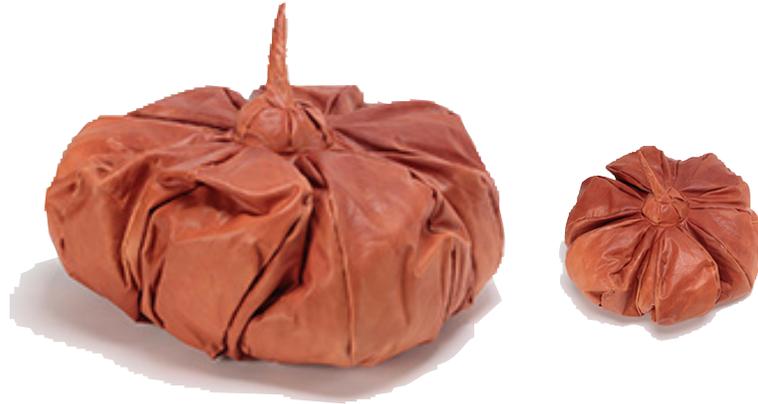
FREE  
フリー部門

ベストプロダクト賞

サクライ ミサさん

— 個人 —

[ とろけるかぼちゃの  
ザブトン ]



カボチャの形を模したワイルドでユニークなプロダクト。クッションや座布団として使えるほか、ファッションに合わせて帽子としてかぶることもできる。多機能であることに加え、革そのもののやわらかな質感が伝わってくるデザインも秀逸だ。作者の自由で大らかな発想が伝わってくるこの作品は、これからの革製品の領域を広げる可能性を秘めている。

フューチャーデザイン賞

中山 智介さん

— 銀職庵水主 —

[ 革ノ花見重 ]



ランタンのような形状のお弁当箱。革製品にはやわらかな木材と呼べるような特性があるが、そのことを再認識させてくれる。ハンガー部分以外は革をはじめとする天然素材で構成しており、土に還すことが可能。陶磁器より軽く扱いも簡単で、日常使いしたくなるカジュアルな魅力にあふれている。晴れた日に料理を詰めて外に出かけたくなるプロダクトだ。

STUDENTS  
学生部門

最優秀賞

福島 拓真さん

— 武蔵野美術大学 —

[ split chair ]



本草に比べて価値が低いとされる床革を新素材として使用。強度に不安があるため、棒状に巻き上げて木材と遜色のない強さを持たせている。革を巻き上げることによって表出した木目模様も特徴的だ。実際に座れないのが惜しいが、本来であれば廃棄される床革の使用は環境面への配慮にもつながるため、まさに未来志向のプロダクトといえるだろう。

ジャパンレザーアワードとは

「ジャパンレザーアワード」は、国内最大のレザープロダクトコンペティション。国産のなめし革またはエキゾチックレザー（ワシントン条約に基づき輸入された革）を表面積の60%以上に使用した作品を募り、優秀なプロダクトを選出する。



# JURY'S SPECIAL AWARD

審査員賞

長濱雅彦選

益子 実佳さん

— 宮城興業 株式会社 —

[ ローカルシューズ ]



山形といえば食肉が有名だが、こちらは牛革を使用したローカルシューズ。アッパーはシンプルに、コバは革組紐をあしらひ華やかに。履き込むごとに味わいの増すスタンダードなデザイン。

天津愛選

石村 誠さん

— ROHMAN —

[ L型ファスナーコンパクトウォレット  
ハーフ&ハーフ ]



異なる色の革を使用したハーフ&ハーフのウォレット。栃木レザーで製造されたブラックとキャメル、両方の革の経年変化が楽しめる。継ぎ目の編み込みが大きなポイントとなっている。

中山路子選

菅野 龍雄さん

— 個人 —

[ たべられません ]



革のもつ風合いや特徴を活かしたオリジナリティのあるプロダクト。果実や野菜の皮の質感を、革を用いてみごとに表現している。実際に手で触れてみたくなる、ぬくもりのある作品だ。

廣田尚子選

矢内 徹さん

— 株式会社 吉田 —

[ ミニマムウォレット ]



薄い革を2枚張り合わせ、内装側からも美しく見えるようデザイン。贅沢に1枚の革を折り返すことで縫い代を削り、よりコンパクトに仕上げている。革と金具を合わせた引手がアクセントに。

有働幸司選

富田 貴昭さん

— 個人 —

[ フットベッドサンダル ]



一生履けるサンダルを目指し、ハンドソーンウェルテッド製法を採用。グッドイヤー製法でつくった靴に比べて強度があり、何度も修理可能。アッパーには希少なコードバンを使用している。

坪井浩尚選

三木 直人さん

— Naoto+m —

[ 外と内の間 ]



フォーマルな鞆に複数の空間をつくり、高級感の中にも遊び心を表現。側面の曲線部に飛び出すポケットがあるため、メイン収納部の整理がしやすい。カラーは外側からのグラデーション。

若杉浩一選

佐藤 真世さん

— 個人 —

[ 酒袋 ]



日本酒の瓶を持ち運ぶための提灯型の酒袋。酒瓶を入れると縦に伸び、絞り染めの世界が広がる。フラットにすると蛇の目のお猪口のように見えるデザインが秀逸。パーティーに重宝しそう。

## 審査員賞とは

厳正なる審査の末に、7名の審査員が受賞作以外で高く評価した作品を1点ずつ選出する賞。受賞者には表彰状が贈られるほか、表彰式と同じ会場において作品が一般公開される。



200近い作品の中から審査員賞が選ばれた



## 国内最大のレザープロダクトコンペティション

今年で13年目を迎える「ジャパンレザーアワード」の審査会が、10月2日に東京・iTSCOM STUDIO & HALL二子玉川ライズにて行われた。東京藝術大学美術学部教授である長濱雅彦審査員長をはじめ、各分野で活躍する気鋭のデザイナーらで構成された審査員7名の審査と協議により、全205作品の中から各部門の受賞作品が決定。コロナ禍においても衰えを見せないクリエイターの創作意欲が反映されたプロダクトが選出された。翌10月3日には、同会場で全作品の一般公開も実施された。

Japan Leather Award 2020 <https://award.jlia.or.jp/2020/>